第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

オオヨシゴイ

Ixobrychus eurhythmus (Swinhoe, 1873)

先崎理之（北海道大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　鳥類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：先崎理之，2026．オオヨシゴイ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 138-142．

Citation: Senzaki, M., 2026. *Ixobrychus eurhythmus* (Swinhoe, 1873). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 138-142.

ペリカン目 Pelecaniformes　サギ科 Ardeidae

オオヨシゴイ

***Ixobrychus eurhythmus* (Swinhoe, 1873)**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧ⅠA類（CR）　C2a(i) D

基準 A:　—	基準 B:　—	基準 C:　CR	基準 D:　CR	基準 E:　—

C．個体群の成熟個体数が 250 未満であると推定される。
【推定根拠】
現在、継続的に渡来が確認されている生息地での確認個体数は数羽のみである。

加えて、以下の 2. かつ a (i) に該当する事由がある。

2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測される。
【判断理由】
かつて多数が生息していた茨城県霞ヶ浦の妙岐の鼻の草原と青森県仏沼では近年確認されていない。北海道小樽市銭函では 2015 年に 1 つがいの繁殖が確認されたが、その後は確認されておらず、釧路湿原では現在も数個体が確認されているものの、毎年確認されるわけではなくなっており、繁殖は確認されていない。本種の生息に適した湿草地は全国的に見てもほとんど残っておらず、また生息個体数もかつての水準と比較して著しく少なく、減少が続いていると推定され、近い将来に消失する恐れが高いと判断される。
a) 個体群構造が次に該当
i) 50 以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。
【判断理由】
現在の確実な生息地は 1 か所であり、確認個体数は数羽のみである。

D. 成熟個体数が 50 未満であると推定される個体群である。
【推定根拠】
現在、継続的に渡来が確認されている生息地での確認個体数は数羽のみである。

評価分科会：　鳥類分科会

概要

本州中北部と北海道の湿性の草原、ヨシ原に夏鳥として渡来し、繁殖する小型のサギ。個体数が激減していると判断され、近年、確実に渡来していることが知られているのは北海道の一か所のみであるが、同地でも繁殖は確認されていない。減少の原因としては、生息環境の破壊のほか、東南アジアの越冬地における捕獲や生息環境の破壊も関与している可能性がある。

基礎情報

【形態】

全長約 40 cm。上面が暗栗色をした小型のサギ。オス成鳥の上面は暗栗色で雨覆は淡灰色、風切と尾羽は黒褐色。下面は黄白色で前頸に 1 本の暗色縦斑がある。メス成鳥は背と雨覆が暗栗色の地に白色小斑を散布し、前頸に縦斑が数本ある。近縁のリュウキュウヨシゴイ（*Ixobrychus cinnamomeus*）はよく似ているが、上面が雨覆と風切も含めて赤褐色である点が本種と異なる。

【生活史】

日本では夏鳥。5～8 月頃、草原の地上に枯れた草本を集めて皿状の巣を作る。一腹産卵数は 3～5 卵。抱卵日数は 16～18 日。雌雄とも抱卵育雛する。小魚、甲殻類、等脚類、昆虫類、両生類等を食べる。亜種はない。

【生息環境】

低層湿原、すなわち、ヨシ原や湿性草原。ヨシゴイ（*Ixobrychus sinensis sinensis*）よりも乾燥した草原を好む。

生息環境区分：	【陸域_平地部】草地，耕作放棄地，湿地・湿原，河川中流域，河川下流域，ため池・池沼，潟・湖・ダム湖
国土地域区分：	（2）里地里山・田園地域，（4）河川・湿地地域

【分布域】

繁殖分布はサハリン、千島列島南部、北海道、本州中北部、 佐渡、隠岐、東シベリア（南部）、ロシア極東（南部）、朝鮮半島、中国。越冬分布は、中国（南部および台湾）、インドシナ半島、マレー半島、インドネシア、フィリピン。

現在の生息状況

【分布域の現況】

本州中北部と北海道。ヨシゴイに比し分布は北に偏り、局地的。直近 10 年の確実な繁殖記録は北海道小樽市銭函の 1 例のみである。ただし、北海道東部の釧路湿原では近年も少数が継続的に確認されている。かつて繁殖していた青森県仏沼や茨城県霞ヶ浦の妙岐の鼻では近年は繁殖していないとされる。

【生息地の現況】

湿性草原は各種の開発、河川改修などで消失しつつある。

【個体数の現況】

関東地方で有名な繁殖地だった茨城県霞ヶ浦の妙岐の鼻の草原では、近年個体数が激減し、1990 年代初めにはまれにしか観察されなくなり、現在は繁殖していない。青森県仏沼での生息状況は、宮（2010）によれば、「80 年代前半には普通に見られ（蛯名 2007）、小河原湖湖岸や仏沼周辺の水田でも生息していたが、近年の生息状況はラムサール登録地南部及び北部の冠水したヨシ原及び中層ヨシ地帯で、繁殖期の 6～7 月に 1～2 羽の鳴き声が

確認されるのみである。生息が確認できない年もあり、近年は繁殖しているかどうか不明である。」とされ、その後は繁殖確認されていない。北海道小樽市銭函で 2015 年に本種 1 つがいの繁殖が確認されたが（大倉 2017）、その後は確認されていない。釧路湿原では 2015～2020 年に行われた調査では 2019 年を除いて雌雄が確認されており、繁殖している可能性が高いとされるが、確認されている個体数は数羽に過ぎない（貞國ら 2021）。

存続を脅かす要因

生息地の破壊（湿地開発）による減少のほか、農薬汚染によって繁殖力が弱められた可能性がある。なお、上述の霞ヶ浦の例のように、生息地が一見保全されているように見えるのに生息がなくなった例があり、東南アジアの越冬地における捕獲や生息環境破壊が影響している疑いもある。

要因の区分：	（過去）	湖沼開発，河川開発，湿地開発，水質汚濁，農薬汚染/化学物質汚染，捕獲・狩猟/園芸採取
	（現在）	湖沼開発，河川開発，湿地開発，水質汚濁，農薬汚染/化学物質汚染，捕獲・狩猟/園芸採取

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	オオヨシゴイ	*Ixobrychus eurhythmus*	CR
第４次 2019：	オオヨシゴイ	*Ixobrychus eurhythmus*	CR
第４次 2018：	オオヨシゴイ	*Ixobrychus eurhythmus*	CR
第４次 2017：	オオヨシゴイ	*Ixobrychus eurhythmus*	CR
第４次 2015：	オオヨシゴイ	*Ixobrychus eurhythmus*	CR
第４次：	オオヨシゴイ	*Ixobrychus eurhythmus*	CR
第３次：	オオヨシゴイ	*Ixobrychus eurhythmus*	EN
第２次：	オオヨシゴイ	*Ixobrychus eurhythmus*	EN
第１次：	オオヨシゴイ	*Ixobrychus eurhythmus*	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【北海道】情報不足(Dd),【青森県】最重要希少野生生物(A ランク),【岩手県】絶滅危惧Ⅰ類,【宮城県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【秋田県】絶滅危惧ⅠA 類(CR),【山形県】情報不足(DD),【福島県】絶滅(EX),【茨城県】絶滅危惧ⅠA 類,【群馬県】絶滅危惧ⅠA 類(CR),【埼玉県】絶滅(EX)(繁),【千葉県】消息不明・絶滅生物(X),【神奈川県】絶滅危惧Ⅱ類(非繁殖期),【新潟県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【福井県】県域絶滅危惧Ⅰ類,【山梨県】絶滅危惧

ⅠB 類(EN)，【兵庫県】要調査種，【和歌山県】絶滅危惧ⅠA 類(CR)，【島根県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【山口県】準絶滅危惧(NT)，【佐賀県】絶滅危惧Ⅰ類種，【長崎県】絶滅危惧ⅠA 類(CR)，【鹿児島県】情報不足，【沖縄県】絶滅危惧ⅠA 類(CR)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

国内希少野生動植物種，鳥獣保護管理法

参考文献

- Dementev, G. P. and N. A. Gladkov, 1969. Birds of the Soviet Union. vol. 2. Israel Program for Scientific Translations, Jerusalem.
- Hancock, J. and J. Kushlan, 1984. The Herons Handbook. Croom Helm, London.
- 宮彰男，2010．仏沼の絶滅危惧鳥類の生息状況について．おおせっからんど年報，2: 17-24.
- 大倉史雄，2017．北海道におけるオオヨシゴイの確実な初繁殖記録．日本鳥類標識協会誌，29: 47-51.
- 貞國利夫・黒澤信道・原田修・本藤泰朗・吉野智生，2021．釧路湿原における繁殖期のクイナ類・サギ類の生息状況．釧路市立博物館紀要，39: 29-33.
- 山階芳麿，1928．浮島沼に於けるヨシゴイ及びオホヨシゴイ．鳥，6(26): 27-29.
- 山階芳麿，1941．日本の鳥類と其の生態．第二巻．岩波書店，東京．1080pp.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Ixobrychus eurhythmus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Ixobrychus eurhythmus* is listed as CR under criteria C2a(i) D.

C. Population size estimated to number fewer than 250 mature individuals and:

2. A continuing decline, observed, projected, or inferred, in numbers of mature individuals and:

a. Population structure in the form:

(i) no subpopulation estimated to contain more than 50 mature individuals.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Grassland, Abandoned farmland, Wetland, Middle river basin, Lower river basin, Reservoir/Pond, Lagoon/Lake/Dam
Threat types:	Lake development, River development, Wetland development, Water pollution, Pesticide/Toxic chemical pollution, Hunting and collecting animals/Gathering plants
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.

執筆者:	先崎理之（北海道大学）
Author:	Masayuki Senzaki

公表年月：2026 年 3 月